

総門の彫工



塚原桂昌師 (けいしょう) 福島政山師 (せいざん)

北澤一京師 (いっきょう)

塚原桂昌さん (本名 忠雄) (後藤流)

昭和8年10月生まれ

中学卒業と同時に父塚原桂月氏(昭和55年勲六等瑞宝章受賞)に師事、後継者として木彫刻のうちでも主として、関東後藤派の正統を継ぎ、現在まで木彫一筋、伝統工芸木彫刻の技能高揚に尽力されている。最近では2年がかりで成田山の開基1070年祭記念事業として建立される総門を飾る隅柱の木鼻獅子(阿吽の3対、合計6体)の大作を製作した。

現在、後継者(ご子息正年氏)を育成中で日本木彫連盟江戸木彫刻の理事長として活躍している。

成田山総門の彫刻では三人のリーダーを務めた。又一切経堂の火頭窓四面の彫刻を制作した。

福島政山さん (本名 政) (後藤流)

昭和12年青梅市生れ

昭和28年4月西田光次氏に弟子入りし、5年間修行、昭和36年に独立、現在に至っている。成田山新勝寺の獅子頭をはじめ、さまざまな神社仏閣、神輿の彫刻を手がけ、現代の名工の認定を受けた江戸木彫界の重鎮である。現在は、日本木彫連盟(江戸木彫刻)理事長であり、葛飾区伝統産業職人会第四代会長である。

東京都伝統工芸士 葛飾区伝統工芸士 東京都マイスター認定
厚労省の卓越技能賞受賞、現代の名工認定 葛飾区伝統産業職人会第4代会長(現在)

北澤一京さん

昭和15年、栃木県生まれ。

江戸木彫の北澤一京といえば、成田山新勝寺の獅子頭をはじめ、富岡八幡宮の日本一といわれる神輿の彫刻師として業界で知らぬ者はない。現代の江戸木彫を代表する彫刻師の一人である。

親方の飯島米山という人物は、名人だった様だが流派は分からない。

富岡八幡宮の日本最大の神輿をはじめ、成田山新勝寺の獅子頭など多数あり。

大スター石原家の仏壇材は、天然記念物の屋久杉、高さ6尺、彫刻はすべて北澤一京が仕上げた。



成田山新勝寺の獅子頭



総門臺股の干支